

第 1 学年 英語科学習指導案

紫波町立紫波第二中学校

日 時 平成18年10月2日(月) 5校時
 学 級 1年1組(男子14名 女子18名 計32名)
 授業者 佐藤 久里子

1 単元名 Unit6 グリーン家の人々 (New Horizon English Course Book1)

2 単元について

(1) 単元について

一般動詞の3人称単数現在形の導入である。3人称で単数の単語が主語になると、その述語動詞の現在形は、原形に-(e)s が付く形になるということだが、ここで生徒のつまづきが見られるようになる。コミュニケーションを行う上で、動詞の変化形を使わなくても大体は通じるが、学習者には正確に教えたいため、本単元で確実な定着を図ることが必要である。3人称単数現在形が理解できず、本単元が高いハードルになる場合が多く、練習や確認の場では正確さを要求するきめの細かい指導を心がけ、3人称単数現在形を用いた表現活動の場では、コミュニケーション活動に重きを置いて指導を進めたい。さらに本単元を学ぶ上で、既習事項である一般動詞の文の構造も再確認させたい。

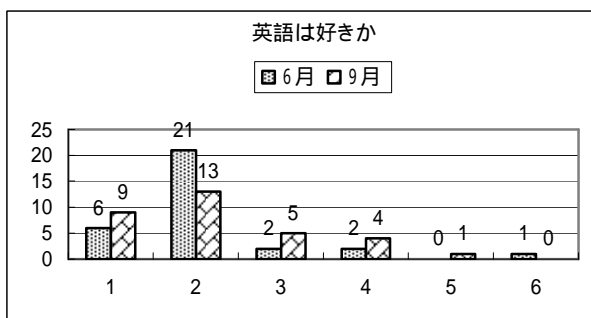
また、本単元は相手を紹介する場面が多いため、1単位時間内で表現活動の場を設定し、自分で文章を作り、それを発表する力をつけさせたい。

(2) 生徒の実態

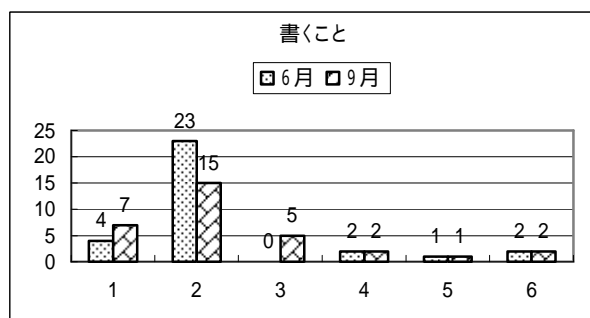
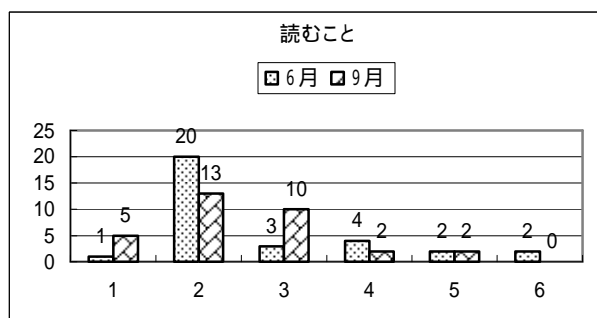
ア アンケート結果から

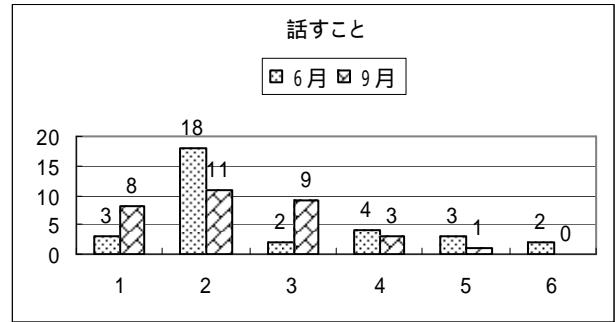
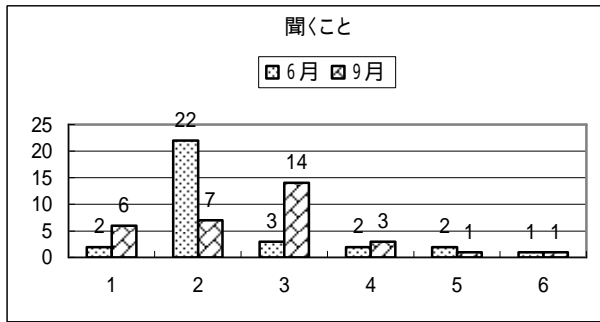
「英語は好きですか。」という質問に対して、「大好き・好き・どちらかと言えば好き」と答えた生徒が27人という結果から、英語に興味・関心を持って授業に臨んでいることがわかる。また、各技能においても苦手意識を持っている生徒は少なく、英語に興味を持っているようである。

4技能ごとの結果を見ても、ほとんどの生徒が苦手意識を持つことなく英語に取り組んでいるようである。『書くこと』に苦手意識を持っている生徒のほとんどが「覚えられない」、「覚えてもすぐに忘れてしまう」という理由を挙げているが、これは、日常的にくり返し書いて練習する習慣が付いていないためと考えられる。継続的に書いて練習する習慣をつけさせるために、家庭学習の工夫や意欲を高める工夫をしていきたい。



- 1 大好き
- 2 好き
- 3 どちらかと言えば好き
- 4 どちらかと言えば好きではない
- 5 好きではない
- 6 嫌い





イ 日常の学級の様子から

学級の雰囲気は明るく、発言や質問も多い。また、アンケートの結果からもわかる通り、英語の学習に対する関心・意欲が高く、ほとんどの生徒が積極的かつ意欲的に学習に取り組んでいる。男女の仲もよく、ペア学習やグループ活動でも前向きに取り組む。さらに、教え合いの姿勢も見られることから、学級全体で向上していこうとする意識が高いと考えられる。

その一方で、自信がある質問に対しては積極的に答えようとするのだが、自信がない質問に対しては、間違えることをおそれて挙手もしなくなる傾向にあるので、質問は短く簡単なものも含めながらより多く問いかけ、生徒が積極的に発言できるよう配慮したい。

(3) 指導の構想

英語科における思考力・判断力は表現の能力ととらえ、「話すこと」「書くこと」「読むこと」の3技能における表現の能力の向上を図る指導を心がけている。そのため、授業の進め方として以下の2通りを使い分けて指導を進めている。

新出文型の導入の際には、いくつか例を提示した上でその用法を理解させ、いかに自ら考え、自ら表現するかを重点として授業を進めている。

既習事項を用いて授業を行う場合においては、

「既習事項の確認」「課題の把握」「課題解決の予想」「予想の分析・検証」「課題の解決」「活用・一般化」

のような、課題解決型の学習過程で進めている。これは主に、単元のまとめの授業で用いることが多いが、本時は主語が3人称単数現在形の時の疑問文を深める学習であることから、この学習過程を元に指導を進めたい。

さらに、指導の際にはペア学習を取り入れ、お互いに教え合いながら学び合う場面を設定し、その中で思考力・判断力を育てていきたい。

3 単元の目標

(1) コミュニケーションへの関心・意欲・態度

発言や様々な活動に積極的に取り組むことができる。

ペア学習などで友達と協力して、コミュニケーション活動に取り組むことができる。

国際都市トロントと英語の「国際語」としての役割について関心を持つ。

(2) 表現の能力

自分の周りの人について、簡単な他己紹介ができる。

人についてたずねたり、それに答えたりすることができる。

(3) 理解の能力

グリーン先生の姉リサの紹介文を聞いて、内容を理解することができる。

リサについての対話内容を理解することができ、日本を代表する文化である歌舞伎について知ることができる。

リサの夫浩司の紹介文を聞いて、内容を理解することができる。

(4) 言語や文化についての知識・理解

- 一般動詞の3人称単数現在形（肯定文）の形・意味・用法を理解できる。
- 一般動詞の3人称単数現在形（疑問文と応答）の形・意味・用法を理解できる。
- 一般動詞の3人称単数現在形（否定文）の形・意味・用法を理解できる。

4 指導計画

- Part1 人について紹介しよう・・・1,5時間
 （主語が3人称単数の時の動詞の違いを理解し、肯定文の文章を作ることができる）
- Part2 リサは日本通？・・・1,5時間（本時1 / 1,5）
 （3人称単数の疑問文を使って問答ができる）
- Part3 トロントはどんな町？・・・1時間
 （3人称単数の否定文を作ることができる）
- 単元のまとめ・・・1時間
 （3人称単数を使って様々な文章を作り、会話をすることができる）

5 本時の目標

- 積極的に発言したり、活動したりしようとするができる。（コミュニケーションに関する関心・意欲・態度）
- 3人称単数現在形（疑問文と応答）の形・意味・用法を理解することができる。（言語や文化についての知識・理解）
- 人について尋ねたり、それに答えたりすることができる。（表現の能力）

6 本時の評価規準

	コミュニケーションに関する 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
評価規準	・積極的に発言したり活動したりしようすることができる。	・人について尋ねたり、それに答えたりすることができる。		・3人称単数現在形（疑問文と応答）の形・意味・用法を理解することができる。
具体的な評価規準	おおむね満足B ・活動場面で積極的に活動することができる。	・ヒントカードを用いながら、人について尋ねることができる。 ・学級の仲間のことについて答えることができる。		・3人称単数現在形（疑問文と応答）の形・意味・用法を理解することができる。
	十分満足A ・活動場面で積極的に活動することができる、それについて発表したり発言したりすることができる。	・何も見ずに、人について尋ねることができる。 ・学級の仲間のことやその他の人について、具体的に答えることができる。		・3人称単数現在形（疑問文と応答）の形・意味・用法を理解した上で、それを使うことができる。
Cへの支援	<ul style="list-style-type: none"> 主語が3人称単数の場合には、動詞にsがつくことを確認させる。 3人称単数の疑問文ではdoがdoesに変化することを確認させる。 机間指導をしながら、個に応じた支援を心がける。 間違えても良いので、大きな声で練習したり発表したりすることを意識させる。 			

7 本時の展開

本時の目標の評価場面 聞き方 LV

学力（1：学ぶ力 2：学ぶための力 3：学ぼうとする力 4：学んだ力）

	学習過程	生徒の活動	指導上の留意点
導入 7分	0. preparation 1. greeting 2. warm-up Quick Fire 3. review 既習事項の確認 4. today's goal 課題の把握	0. 教科リーダーは、今日の日付と天気を板書する。 生徒全員が黒板を見ながら日付と天気を振り返り表に記入する。 忘れ物がないか確認し、記入する。 1. 英語で元気に挨拶をする。 2. 前時までに習った疑問文などを用いた教師の質問に、英文で答えながら復習する。 3. 3人称単数の肯定文を言い確認する。 (LV6) 4. 本時の目標は何か全員で確認する。 (LV3)	0. 教科リーダーが書いた日付と天気に誤りがないことを確認し、あった場合には素早く訂正する。 (1) 1. (3) 2. できるだけ文で答えさせる。 (4) 3. 動詞にsがつくことを意識させる。 (4)
会話の話題になっている人について、質問をしたり答えたりしよう。			
展開 38分	5. guess 課題解決の予想 6. practice 予想の分析・検証 7. application 課題の解決	5. 主語が3人称単数の時の疑問文はどのような形になるか、確認する。 6. (1)P.C.を見ながら全体で練習する。 (2)基本練習を繰り返し行う。 7. (1)インタビューカードを用いて、隣の人を紹介する。 (2)紹介されている人について質問をし、紹介者はそれに答える。 (3)全体で3人称単数形の疑問文の確認をする。	5. 一般動詞の疑問文でもあるに関わらず、doではなくdoesを使っているところに着目させる。 主語が3人称単数であるにも関わらず、動詞にsがついていないところに着目させる。 (2) 6. doesを使った疑問文の確実な定着を図る。 7. (1)できるだけ多くの生徒に発表してもらおう。 (2)doesを用いて質問しているか確認する。 (2 3 4) (関心・意欲・態度 表現) (3)自信を持って言えるよう、配慮する。
終結 5分	8. conclusion 9. greeting	8. (1)振り返り表に本時のまとめのテストの答えを記入する。 (2)達成度と授業の反省を書く。 (3)宿題と次時の予告を聞く。	8.(1)答えあわせとともに、改めて本時の学習課題の確認をする。 (4) (知識・理解) (2)全員が書いていることを確認する。 (3) 9. (1)